

半導体漫遊記 湯之上隆

(311)

1992年から2017年まで、世界半導体売上高ランキング1位の座に君臨してきたプロセッサメーカーの米インテルが苦境に陥っている。その具体的な事例を挙げてみると、次のようになる。

・2022年10月12日、インテルはPC市場の失速に対応してコスト削減を図るため、数千規模の人員削減を行う見込み(現在の社員数は17万5千人)

・22年10月27日、インテルは業績が悪化していることを受け、25年までに最大100億ドルのコスト削減に取り組むと発表した(今年23年だけで30億ドルを削減)

・23年2月1日、インテルはCEOの基本給を25%減らすことを明らかにした。ほかの

経営陣や管理職の基本給も5〜15%減らすという

これらに加えて、インテルが初めてEUVを使う「intel 4」が未だに立ち上ら

いてみたところ、「インテルが差し迫った破産の危険にさらされているように見える」という回答だった。しかし筆者はこの回答に納得できなかった。自分でインテルおよびそのライバルの米AMDの業績を調べてみた。その結果は驚くべきものであった。

AMDは18年からTSMCに生産委託する。その後、20年頃から売上高が上昇し始め、22年第2四半期に過去最高の66億ドルを記録する。その後もやや低下したが、同年四半期に56億ドルで踏みとどまっている。

次にインテルとAMDの四半期毎の営業利益を見て、筆者は衝撃を受けた。その中で、イン

高が上昇した20年ごろから利益を出せるようになった。PC需要が落ち込んだ22年後半には、さすがにAMDも赤字になったが、その額はマイナスイ・5億ドルと軽微である。

21年にコロナ特需が起きたが、22年にその特需が終焉して深刻な半導体不況に突入した。その中で、イン

インテル、困ってる

半導体王者が転落するとき

まずインテルとAMDの四半期ごとの売上高を見てみると、インテルの売上は上下動しながら増大し、22年第1四半期に過去最高の205億ドルを記録する。ところがその後、売上高は急降下し、同年第4四半期にはピークの68%の140億ドルまで落ち込む。

一方、もう一つのプロセッサメーカーのAMDは18年からTSMCに生産委託する。その後、20年頃から売上高が上昇し始め、22年第2四半期に過去最高の66億ドルを記録する。その後もやや低下したが、同年四半期に56億ドルで踏みとどまっている。

次にインテルとAMDの四半期毎の営業利益を見て、筆者は衝撃を受けた。その中で、イン

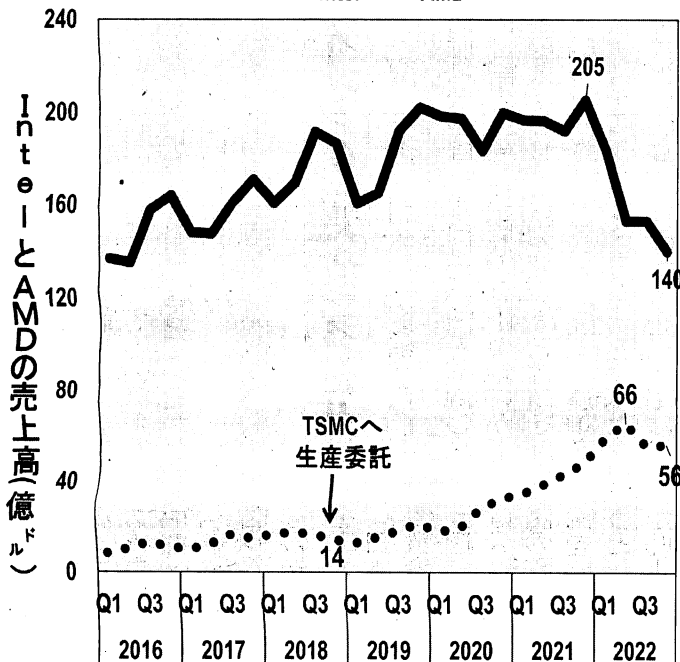
ず、23年中の量は絶望的であるという。EUVを使いこなすことができていないと見られる。

このようにプロセッサ市場を独占してきたインテルについて、良いニュースが何もない。そのインテルの行方について、今はやりのChatGPTに「インテルは倒産するのではないか?」と聞

一方、もう一つのプロセッサメーカーのAMDは18年からTSMCに生産委託する。その後、20年頃から売上高が上昇し始め、22年第2四半期に過去最高の66億ドルを記録する。その後もやや低下したが、同年四半期に56億ドルで踏みとどまっている。

次にインテルとAMDの四半期毎の営業利益を見て、筆者は衝撃を受けた。その中で、イン

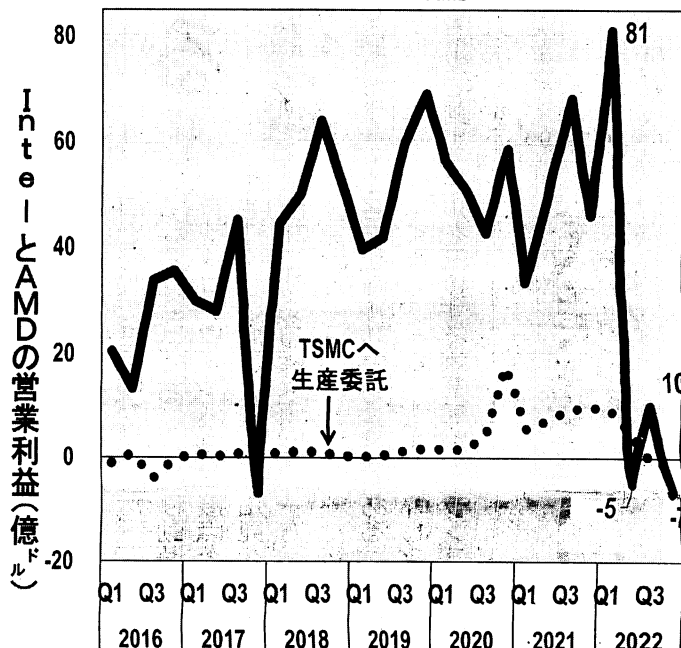
Intel ●●●AMD



IntelとAMDの四半期毎の売上高

出所: IntelとAMDの決算報告を基に筆者作成

Intel ●●●AMD



IntelとAMDの四半期毎の営業利益

出所: IntelとAMDの決算報告を基に筆者作成